大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

NO.84
2010.12
秋

特集　第13回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナー

弘報戦略の展開と協働の模索
――第13回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナーを終えて　山口雅己……2

日本大学出版部協会の弘報活動　斎藤至……4

韓国の大学出版部のプロモーション戦略　金廷奎……10

【インタビュー】
韓国の出版は、いま――蔡星慧さんに聞く……18

●連載

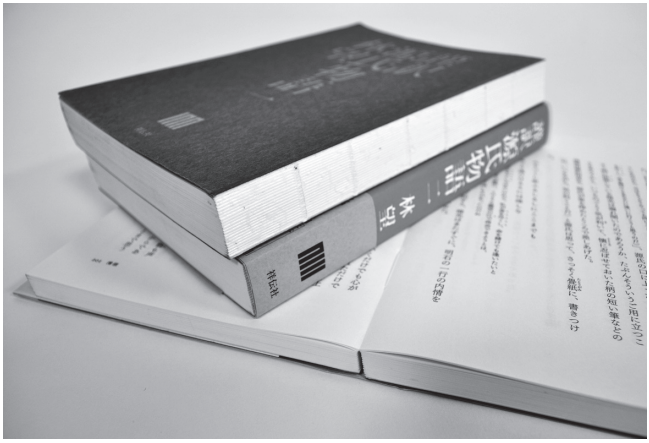
初版本、ナンセンスなフェティシズム
林望現代語訳『謹訳 源氏物語』　酒井道夫……表2

大学出版部ニュース……26

一般社団法人大学出版部協会
THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

初版本、ナンセンスなフェティシズム

林望現代語訳
『謹訳 源氏物語』
酒井道夫（二代目酒井九ポ堂）



開き具合はご覧の通り。私と家内が読了したが、端正な姿は保たれている

全十巻（祥伝社　二〇一〇年三月刊行開始、装訂・林望、本文デザイン・祖父江慎）で完結するはずのところ、この稿の入稿時にはまだ三巻目の刊行が果たされているだけ。なのに早々とこれを持ち出したのは、その独特な製本方式を紹介したかったから。

一見、何ということのないソフトカバー。いつもなら、「本文デザイン・祖父江慎」とあれば、何かしら彼らしい機智に富んだ仕掛けを期待するところだが、意外に普通の見栄えなのは「装訂・林望」と謳っているところに深〜い理由があるのだろう。手にとって開くと、いきなりノドの奥までパッと割れてしまうのでハッとする。近頃の本は、不用意に強い開きグセをつけると読了するまで不愉快な感触がつきまとうのだが、この本はそうならない。閉じれば元通りに行儀よく収まって変なクセが残らない。

本来ページの開き加減が良いのが特徴なはずの丸背本格製本とされる書籍の多くが、近頃ではその硬い背固めのために、うっかり本を伏せたりすると背がパッカリと割れる。それが嫌なら、自然、ページは半開のままソッと覗き込むような読書姿勢になるが、この姿はあまり他人には見られたくない。

そんな製本のせいばかりではないが、机前に端座してじっくりと本と向き合う時間を失ってから久しい。いまでは相当重量のある本でも、寝椅子に仰向けで掲げ持って読む有様。結果、睡魔に襲われてバタンと取り落とすこと一度や二度では済まない。お陰で読了時には表紙の角をすっかり痛めてしまう。その点、古い文庫本なんかだと、かがり糸が切れてバラケそうなのを机上に置いて頬杖をつき、片手でページを繰りながら妄想逞しく読み進む醍醐味が蘇ってくる。この本はその醍醐味を保証してくれているのだが、身についた近頃のクセとして、大方は寝椅子に仰向けで読んでしまったのが残念。

ところで、この本はジャケットを剥くと背文字が失われる。図書館はどう扱うのだろうか？

特　集

第13回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナー

弘報戦略の展開と協働の模索——第13回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナーを終えて

山口雅己（理事長・東京大学出版会）

はじめに

第一三回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナーは、二〇一〇年八月二二日、平城遷都一三〇〇年を記念する多彩な行事で賑わう奈良市で開催された。会場となった奈良県新公会堂は奈良公園の一角、東大寺の南西に位置する壮大な建造物で、一三万八千枚もの瓦を用いた日本最大級の屋根をもつことから「ビッグルーフ」なる愛称がつけられている。能楽ホールを擁し、若草山を借景とする日本庭園がしつらえてある等、心地よい環境のもとでのセミナーとなった。

大学出版部（協会）の弘報戦略

今回の「奈良セミナー」は本来、二〇〇九年八月開催の予定で準備が進められていたのだが、日本（とくに関西圏）における新型インフルエンザの流行のために順延となったものである。また、日本・韓国・中国三カ国の合同セミナーとは言い条、奈良セミナーの開催直前まで中国大学出版社協会の動向が判然とせず、結果としてＳＡＲＳの発生により中国代表団の訪日を自粛していただいた二〇〇三年（第七回）札幌セミナーと同様、日本・韓国二カ国の参加による変則的な開催となってしまったのは残念なことであった。大学出版部が大学を母体に成立する組織である以上、その地理的分布は全国各地に散らばることが通例であるが、中国のように広大な国で日常的にそれらをまとめ、統一的な事業を継続することは、われわれが想像する以上に困難なことなのであろう。とまれ、二〇一一年、中国が輪番の開催国にあたる第一四回の三カ国セミナーに向け今後

も三カ国間の連絡を密にし、真摯な努力を継続してゆく所存である。

奈良セミナーの共通主題は「大学出版部（協会）の弘報戦略」であった。報告の詳細は別稿に譲るが、日本からは京都大学学術出版会・斎藤至氏が協会の営業・電子・編集・国際各部会の活動を紹介し、事務局と関西支部の機能を含め、大学出版部の「協働」の意義を強調した。韓国からは放送通信大学校出版部・金廷奎氏による「韓国の大学出版部のプロモーション戦略」が論じられた。出版社と書店との間の取引慣行・条件のおおきな相違が彼我にあることを斟酌しても、韓国の大学出版部の積極的な戦略（とくに、販売比率が三〇％を超えるに至ったネット書店への働きかけや読者の組織化）についての具体的な報告は、われわれが学術書・教養書の更なる販売促進を図るうえで、たいへん示唆に富んだものであったと思う。

三カ国の協働に向けて

ところでわが国出版界はいま、「電子書籍ブーム」に沸き立っていると言ってよいだろう。新しい動きとしては、文芸書を中心に著者（作家）・大手出版社のみならず、書店、印刷会社、電子機器産業各社が入り乱れて電子書籍・雑誌の出版をビジネスにしようと試みており、消化・吸収できないほど多くの情報が日々発信されている。書籍の電子化にかかわる課題のうち、フォーマットの標準化が政府の支援により先行すると思われるが、韓国も同様の局面を迎えているようだ。奈良セミナーでとくに話題の中心となったわけではないが、電子出版に向けて、また将来間違いなく実用化されるであろう「母体大学における教育のＩＣＴ化」に大学出版部の立場から協力するために、三カ国大学出版部協会相互で必要な「協働」を、実質的な販売の側面あるいは技術の側面で企画してゆくことがますます重要になると思われる。時間を要することは覚悟のうえで、取り組むべき課題である。

おわりに

前述したように今回の奈良セミナーは一年順延された後での開催となったのだが、会場・宿泊予約の順延要請を快諾してくださった奈良県新公会堂ならびにホテル日航奈良のご配慮には、あらためて感謝の意を表したい。また、奈良県ビジターズビューローからは晩餐会でのアトラクション（雅楽と舞）等にご援助を賜った。たいへんありがたく、御礼申し上げる次第である。個人的にも四〇年ぶりに東大寺を参拝し、笙や篳篥（ひちりき）の生の音色にはじめて触れるという経験をした。前回の日本開催（第一〇回）は京都で挙行されたので、三カ国セミナーを通じ日本の二大古都を訪ね、韓国・中国の旧友と語らうことができたのは、無上の喜びであったことを申し添えておきたい。

日本大学出版部協会の弘報活動

斎藤　至（京都大学学術出版会）

はじめに――日本大学出版部協会と弘報活動

本稿では第十三回日本・韓国・中国大学出版部協会合同セミナー（以下、三カ国セミナー）での日本側報告要旨に、当日明らかになった韓国との比較の視点を交えて報告する。ここでは「弘報活動」を、①書籍の宣伝をどう展開するか、②大学出版を社会的にどう発信し、その意義と価値を高めていくか、という二つの点における活動として捉える。そして、この見地から日本大学出版部協会（以下、協会）の活動を紹介し、個々の大学出版部が協働する意味を再確認したい。[1]

大学出版部のミッションの一つに、資金・人材などについて限られた条件で、一般の商業出版社では困難な出版活動を行うことが挙げられる。他方、著者にとって著作を刊行する魅力を保ちつつ、大学の一部局として、あるいはそれと連携して「広報」の機能を担ってゆかねばならない。協会活動は、このジレンマに対する一つの解決策といえよう。特に近年、大学に求められる社会の需要が高まるにつれて大学出版部にも多様な役割が求められている事情もあり、各部会の有機的な連携は円滑な弘報活動の推進に不可欠となっている。

1　事務局――協働の理念と指針

協会は事務局と四つの部会から構成される。事務局は、部会の活動を連携させて協会活動を実務的に束ね、協働に際しての根本的な理念や指針を示す役割を担っている。

日本の大学出版部の組織には七つの形態があり、特に収益に関する考え方は大きく異なっている。[2] 例えば東京外国語大学出版会のように、従来の類型では割り切れない国立大学法人の出版部が徐々に姿を見せ始めている。こうした

多様化のもと、目的の共有とそれを実現する新しい手法が求められている。他方、協働による「弘報」機能がその一つの核であることに変わりはない。以下ではこうした協働の意味づけに焦点を絞り、各部会の活動を紹介する。

2　営業部会——書籍販売支援の主軸

営業部会では日本全国にある個々の大学出版部の枠を越え、共同での弘報活動や、刊行物の宣伝・普及・販売事業に取り組んでいる。書籍市場が劇的に変わりつつある今、今後も書店・取次・図書館のニーズに耳を傾け、「知の財産」を後世に伝える役割を担い続けたいと考えている。

多様な読者・専門家へのアプローチ

まず、毎年七月にお台場の東京ビッグサイトで開かれる「東京国際ブックフェア」で、協会の共同出展ブースを設置し、書籍の展示販売に加えて版権取引を行っている。特に三年前より版権取引に重点をおき、英文の目録作成や、主催者のサービスを利用しての国際配信に努めている。このほか毎年、フランクフルト国際ブックフェア・北京国際図書展などの主要な国際ブックフェアに参加している。

また、紀伊國屋書店、ジュンク堂書店等、大型チェーン店で協会フェアを実施し、各大学生協では分野別のブックフェア等を行っている。最近では、日本最大の本の町である神田神保町の東京堂書店で定期フェアを、三省堂書店神保町本店で売行き良好書および新刊の販売を行っている。

図書館向けの販促支援

第三に、新しく刊行される本の点数がますます増え、研究の専門化が進むなか、図書館の選書作業を支援するために「図書館蔵書調査」と「新刊図書見計い納本」を積極的に進めている。

「図書館蔵書調査」は、検索システムを利用して、図書館の蔵書状況を調査し、これをもとに販売促進をはかる手法である。加盟出版部は、刊行から約三年の近刊を中心に得た調査結果を販売促進データとして書店営業担当者に提供し、購入に結びつけるよう努めている。

荒廃する世界のなかで
これからの「社会民主主義」を語ろう
ジャット　今日の市場社会が生む不安と混乱。世論を鍛え直して政府の役割を再考すべし——歴史家の遺言。森本醇訳 ¥2940

なぜ科学を語ってすれ違うのか
ソーカル事件を超えて
ブラウン　科学の合理性を十全に認めつつ、科学的知を絶対視しない現代に通用する科学観とは。科学論入門。青木薫訳 ¥3990

ベッドルームで群論を
数学的思考の愉しみ方
ヘイズ　経済、戦争、DNAから分水嶺まで、世界を数学的ツールで眺める妙味。大好評の数学エッセイ。[3刷] 冨永星訳 ¥3150

あなたたちの天国
李清俊　ハンセン病隔離の島・小鹿島（ソロクト）の楽園建設の夢と挫折。実話による韓国のロングセラー小説。姜信子訳 ¥3990

ファン・ゴッホ詳伝
二見史郎　幕末日本とゴッホ一族の関係から精神の病の真相まで。可能な限り実証的に画家の生涯を辿った書き下ろし。¥3990

イデーン Ⅲ
フッサール　現象学が他の諸学問に対してもつ独自の超越論的位置とは。現代思想の原点の書、全巻完結。渡辺・千田訳 ¥4830

イデーン I-I　渡辺二郎訳 ¥6300
イデーン I-II　渡辺二郎訳 ¥7140
イデーン II-I　立松・別所訳 ¥4410
イデーン II-II　立松・榊原訳 ¥6300

東京文京本郷5丁目32－21　みすず書房
tel. 3814-0131 fax 3818-6435（税込）
http://www.msz.co.jp

「新刊図書見計い納本」は、図書館の選書基準に見合った新刊図書を刊行の都度送品し、収書の判断材料としてもらう活動である。新刊が書店を通じて自動的に送品されるため、図書館は、実際に現品を手にとって選書することができる。少部数の専門書でも機会を逸することなく購入できる一方、協会加盟出版部にとっては、積極的な送品が販売機会の増加にもつながっている。この「見計い納本」は一九八三年十月の早稲田大学図書館から始まり、現在では、全国の大学図書館等に加盟出版部から自動的に送品されている。

3　電子部会――デジタル技術の戦略的活用

一九九〇年代から始まるデジタル革命は、日本の出版業界に三つの変化をもたらした。出版コンテンツ形態の変化（近年の「電子書籍」化）への動きよりも前に、最初に起きたのは出版物プロモーション方法の変化であり、続いて出版物流通システムの変化が生じた。ここでは特にウェブサイト利用による弘報活動について紹介する。

ウェブサイト・リニューアルの役割と意義

協会ウェブサイトは二〇一〇年四月にリニューアルし、大きく分けて二つの機能をもつ。

一つは、各出版部のプロフィール紹介と協会ニュースの発信である。また、協会広報誌である『大学出版』の大部分（現在、三七号から八一号まで）、および「新刊速報」のバックナンバーを閲覧することができる。

もう一つは書籍の紹介である。例えば、「WEB BOOK FAIR」と題して、半年ごとに各出版部の自薦図書を紹介している。また「各出版部のお薦め本」コーナーと「主題による書籍紹介」のコーナーを設置している。

また、月二回メールニュースを配信し、一回は「新刊速報」を、残りの一回は「編集者が薦める本」を配信している。そのほか、Ｔｏｋｙｏ ＦＭインタラクティヴと提携して「BOOK LOUNGE」を二〇〇三年から開設（現在は休止）していた。

これまで日本の出版業では、取次が、書籍情報の提供、出荷配本、売上管理回収、返品まで全て行ってきた。しかし、出荷に対して四割を超える昨今の高い返品率、また雑誌売上の急激な落ち込みに伴い、現在の出版流通システム自体の見直しが盛んに議論されている。さらに、この情報化社会においては、ネット上に書誌情報が存在しない書籍はますます読者に届く機会を失う。協会では自らの手で商品の販売促進に努める一層の必要性を感じ、インターネット上での積極的な展開に乗り出した。

インターネット販促の進む韓国

インターネットの一般的利点として、低コストで、かつ専門ごとに個別的販売促進ができる点が挙げられる。特に、大学出版部協会としてまとまってシステムを構築することで、コストダウンを図ることができる。一方、参入こそ容

易ながら、それに見合った構想と広報宣伝費用を必要とするため、結局はマーケティング力に勝るコングロマリットに占有される可能性も指摘されている。[3] この点、韓国大学出版部協会からは、インターネットの特性を活かし、個々の顧客情報をデータベース化した緻密な販促戦略が報告された。[4] 措定する読者の差異に留意する必要はあるが、スマートフォンユーザをはじめ若い世代をも視野に入れた大きな構想力は、日本の大学出版部にも示唆を与えよう。

4　編集部会——書籍制作の錬磨と発信

編集知の社会的発信

編集部会ではこの『大学出版』の企画編集と刊行、書籍の総合的ケーススタディのほか、二〇〇五年の法人化を機に、独自の編集による企画書籍の制作を始めた。その第一弾が二〇〇七年に発刊した『ナチュラルヒストリーの時間』である。

本書は自然科学書ブックフェアの展開と相まって、マスコミ、書店、読者、そして学術出版を支える執筆者に対して、協会の存在をひろく印象づけることができたと思われる。また、連合体が発行元となった書籍の出版は、一つの冒険的な試みだった。

本書のようにひろく読者を措定する教養書は、単価の低さゆえに、また多くの商業出版社の参入も相まって、日本の大学出版部にとっては販売実績を上げることが難しいジャンルとされてきた。一方、韓国の大学出版部はファミリーブランドを立ち上げて独自の教養書を展開している。例えば韓国放送通信大学校出版部の「知識の翼（Wings of Knowledge）」、梨花女子大学校出版部の「The Spirit of Korean Cultural Roots」などは、〈大学〉出版部の堅苦しさを払拭し好評を得たといわれる。こうした事例も踏まえると、教養書の刊行は、リスクを分散し社会的意義を高める一つのモデルと捉えなおすこともできるのではないだろうか。

日本政府の出版補助金政策に対する提言

日本では、研究成果を書籍や雑誌などの形で公表する際に政府が交付する科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が、二〇〇八年から二年続けて大幅に削減された。これに対して協会では、二〇〇八年六月に、日本学術振興会と文部科学省に制度の継続と発展を訴える要望書と資料を提出した。[5]

協会が行動に踏み切った背景としては、①研究者全体の

状況について個々の研究者よりも理解をもち、②学術書の出版においては、出版社も著者や読者と並ぶ主要な担い手である、などの理由からであった。この活動は大学出版部の社会的発信・唱導という意味で「弘報」と言えた。

二〇一〇年度のこの補助金の状況を見る限り、少なくともその削減には一定の歯止めがかかり、活動の直接的な成果が現れたようだ。同時に、大学出版部の新たな存在意義を示す機会となり、結果的に、「弘報」活動としての意義をも帯びたといえる。

5　国際部会——国際交流の深化へ向けて

国際部会は国際社会への弘報機能を担っているが、主に日本語による書籍を刊行している日本の大学出版部にとっては、他の部会の活動に比べてやや具体的な成果が見えにくいともいえる。現在のところ、例年、協会の夏季研修会と併催する三カ国セミナーの対応と運営が主要な業務だが、将来的には、書籍を軸にした国際交流の促進を構想している。

具体的な取り組みの一つとして、各国書籍の翻訳促進が挙げられる。連絡仲介、「標準的出版契約書」などの提供、お薦め書籍の情報取りまとめ、展示書籍の解説文翻訳などは、関係者への発信として有益だろう。もしも国際部会を通じて毎年何点か海外翻訳の実績ができれば、協会の弘報機能強化および加盟出版部の国際的地位を高めることができよう。

本年の三カ国セミナーでは、こうした国際部会の将来像を想定して、午後に九〇分の「版権（翻訳著作権）ワークショップ」を開催した。当日はコーディネータの話題提供を三〇分超にとどめ、商談の時間を長めに設定した。四人の通訳者を間に挟んで活発な商談がされ、見本請求は期待以上の数に上り、とりまとめにも夜遅くまで時間を要する活況ぶりであった。また、東海大学出版会が中国山西経済出版社との半年にわたる交渉から作りあげた出版契約書雛形は、各出版部にとって大きな助けになろう。初めての試みだけに総括すべき課題も残るが、これを契機に少しでも多くの案件が成約に結びつくことを期待したい。

おわりに——編集の「第三の顔」

ここまでは「弘報」すなわち営業的あるいは社会的発信という観点から協会活動を紹介した。だが編集室に籍を置く筆者にとっては、編集という業を営業的観点で捉えなおす機会でもあった。最後にこれを「三つの顔」と位置づけて本稿を締めくくりたい。

第一に、著者を見出す企画者の役割。第二に著者を常に支え、ときに協働する制作者の役割。特に大学出版部では、既に評価の確立した著者・組織のみならず、卓越した業績を修めながら世に知られざる著者を発掘し支援する視点が欠かせない。

そして第三の顔が、既刊書籍を翻訳促進へとつなげるコーディネータの役割。広く言えば、各種共同出版に向けた国際交渉などもこの顔に含まれうるだろう。「この本は私たちのお薦めです。ぜひ翻訳して、貴国でも大いに普及しましょう」――いわば時を追って蓄積された「知の財産」を振り返り、編みなおしていく役割といえる。

本号巻頭に寄せられた山口雅己論文でも触れられている通り、日韓中三カ国の協働を深めるには更なる努力が求められる。こうした局面のもと、大学出版部の存在意義を確かめあうのみならず、それが出版業界の外へも伝わったならば、企画と実施に尽力した各位ともども喜ばしいことはない。

（1）例えば営業部会による販売実績等の詳細は『第十三回三カ国セミナー講演録』を参照されたい。

（2）新たな大学出版部の設立から得た経験は、第十一回三カ国セミナーで報告された。三浦義博［二〇〇七］「日本の大学出版部における組織運営形態」『大学出版』七二号を参照。

（3）アンドレ・シフレン著、勝貴子訳［二〇〇二］『理想なき出版』柏書房、一九三―一九四頁。

（4）詳細は本号所収の金廷奎論文を参照。

（5）科研費出版助成を巡る詳細な経緯は『大学出版』七九号の特集を参照。

パレスチナ・そこにある日常

高橋美香 著・写真

家族を見守るような眼差しの向こうに、パレスチナが、人びとが、生き生きと立ち上がってくる。生き抜くことのせつなさと苦難の果ての希望も。
――長倉洋海

カメラ片手に向かった先は、ガザ、エルサレム、ナーブルス、ラマッラー、そしてビリン……パレスチナに生きる人びとのありのままの日常を伝えるルポルタージュ。写真カラー＆モノクロ95点。
◆2100円

沖縄写真家シリーズ
琉球烈像
第9巻〔第2回配本〕

東松照明写真集
camp OKINAWA
金平茂紀・倉石信乃 解説

「沖縄に基地があるのではなく基地の中に沖縄がある」と氏が述べた1969年より40年余を経てなお、米軍は沖縄に駐在している。基地がもたらした文化とあまりにも鮮やかな色彩を透徹した構図でとらえる114点（カラー60点）を収録。 ◆5040円

【好評既刊】
第4巻（第1回配本）
大城弘明写真集
地図にない村
仲里効 解説
◆3990円

未來社 〒112-0002
東京都文京区小石川3-7-2
tel 03-3814-5521
http://www.miraisha.co.jp/
★出版図書目録無料進呈いたします★
※価格は税込

韓国の大学出版部のプロモーション戦略

金廷奎（キム チョン ギュ）（韓国放送通信大学校出版部）

はじめに

最近の企業環境をよく見ると、製品間・企業間の競争が激しくなっており、大型割引店やインターネットショッピングモール形態の小売業者が威力をふるい、コミュニケーションメディアが多様化しつつ、新規顧客獲得に掛かる費用が急増している。それにより、顧客との関係維持・強化のために顧客関係管理（customer relationship management：CRM）が次第に重要になっている。

そして、このような環境変化に伴い、消費者たちが接する情報は断片的かつ視覚的なものに変わりつつある。統合的マーケティングコミュニケーション（integrated marketing communications：IMC）の必要性が増大し、オーダーメード型顧客サービスとも言えるプロモーションの個別化が進行している。

出版業界も同じような状況に置かれている。本の種類が多くなり、出版社同士の競争も激しくなっており、他の分野、すなわち映画やゲーム、オンラインコミュニティーという娯楽などに読書層を奪われつつある。

大学出版部は、さらに一層の危機に直面している。複製技術の発達、デジタル化されたテキストの無断複製及び流通などによって、大学の教材や学術書市場がますます縮小しつつあるからだ。とりわけ韓国は、学術書の主要購買者である公共図書館の国民一人当り蔵書数（一・一八冊）が、日本（二・八冊）やアメリカ（三・〇冊）ほどに増える兆しが全く見えないこともある。

この論文では、このような状況を打開し環境変化に積極的に対応できる戦略を模索するために、（韓国消費者たちの最近のトレンドを調べ、）韓国の大学出版部のプロモーション戦略について論じる。

この論文で扱うプロモーションの範囲は、具体的には広告（advertising）、広報（public relations：PR）、個人向け販売（personal selling）、販売促進（sales promotion）、すなわちプロモーションミックス四種に限定する。

そして、予め皆さんに理解していただきたいことは、今回のセミナーの主題は「大学出版会の弘報戦略」であるものの、その範囲が狭く扱う内容があまりに少ないので、広報の概念を広義に解釈して「プロモーション」とみなし、上に指摘した四種のプロモーションミックス全てを扱うことである。

韓国大学出版部のプロモーションの現状

韓国出版物振興財団（二〇一〇）が発行した研究報告書に基づいて、韓国出版界の最近の動向をよく見ると、次のとおりだ。第一に、出庫量減少、翻訳書依存度の高まり、読書人口割合の減少傾向、が持続している。第二に、出庫量において上位一〇社の占める比率が全体の五〇％を上回っている。対売上高比率では、学習参考書業界が八〇％を占めており、残りの二〇％を占めている一般書籍（単行本）出版業界では、年間売上一〇〇億ウォン以上を記録する業者数は二〇％未満であるが、金額比重は七〇％を上回っており典型的な両極化構造を見せている（登録出版社三万一〇〇〇のうち、実績がない出版社が九〇％）。第三に、書店数の減少傾向が続くなか、一〇〇坪以上の書店数は増加して両極化構造を見せている。第四に、売上のなかでインターネット書店が占める比率が持続的に拡大している（二〇〇七年二九・二％、二〇〇八年三一・九％）。第五に、サプライチェーン同士で情報システムが連携していないため需要把握が難しく、e-ビジネスを通じた費用節減や業務効率化は期待しにくい。第六に、零細性によって顧客情報の蓄積、顧客との相互関係設定などの体系的なCRMシステムが構築されていない。

同時に、大学出版部も最近の学内部署統廃合政策によって縮小する傾向を見せている。

このような外部環境の変化に対し、効率的にうまく対処するために、韓国の各大学出版部は各自の立場で長所を最大限に活用する多くの戦略を駆使している。しかし、小規模な財政と専門的人材の不足により、しっかりとした戦略を実行できていないのが現状だ。

以下では、韓国の大学出版部のうち、財政規模が最も大きく、所属する学生数が多いという特徴を持つ韓国放送通信大学校出版部の事例を見ていく。

韓国放送通信大学校出版部

放送大出版部は、二〇〇九年決算基準で見れば、総流通点数約七〇〇、新刊点数約一二〇、売上高約一四〇億ウォン、総予算約二〇〇億ウォン（プロモーション費用約二億ウォン）、（実務）職員数二五人規模の出版社だ。主力図書

は放送大学生のための教材で、全体の売上高の九五％を占めており、残りの五％は単行本だ。単行本は二〇〇四年に立ち上げた教養図書ブランド「知識の翼（Wings of Knowledge）」と二〇〇六年に立ち上げた学術図書ブランド「エピステーメー（Episteme）」が主であり、現在、教養文庫「アロリ叢書」を含めて約一〇〇点が流通している。

放送大出版部にプロモーション概念が導入されるようになったのは、単行本事業のはじまりを直接の契機とする。それまでは「教材販売」ではなく「教材供給」という受動的・行政的態度で接していた教材事業に、単行本プロモーション技法を適用するようになり、ＩＭＣの概念が導入され、職員たちの態度に変化が生じるなど、ある程度の相乗効果が出ている。それぞれのプロモーション計画を立てる時、一貫したメッセージを維持することは容易ではないが、それが可能になったからだ。しかし、導入から間もないゆえ、精緻に効果測定する段階までは到達できていない。

内部顧客のためのプロモーション

①教材プロモーション

放送大は遠隔教育大学だ。したがって、一八万人に達する在校生たちは、学習における教材依存度が一般の大学に比べてかなり高い。そして、教材の価格はそれをコピーするよりも安く、学生たちの教材購入率は受講人員の対比で八〇％に達する（プロモーション活動以後、最近四年間で約一〇％増加）。このような学生たちに、放送大で学ぶにあたって教材がどれほど重要であり、教材を中心にどのように勉強すれば良い成績をあげることができるかを持続的に広報して、市販の参考書を排しながら教材と講義中心の学習文化を定着、維持させようとするプロモーションコンセプト戦略を駆使している。

第一に、「広告」に該当する方法として、購入案内の広告を配布している。Ａ２サイズ二色刷りの広告には、学部別のシラバス、教材の内容構成と価格、出版年度、購入方法が詳しく載っている。また、教材の代わりとも言える市販の参考書では不充分な点を指摘する批判的な紹介も載せている。現在、著作権侵害の疑いで放送大の教材執筆者たちが訴訟を起こしている市販参考書に対して、「不法」であり、粗悪で価格が高いという点を強調した内容だ。この広告を新編入生たちには合格通知書とともに郵送し、在校生たちには登録案内文とともに郵送する。二〇〇九年には一、二学期に約五〇万枚が発送された。学部別に作ったこ

の広告は、関連学部の教材を見てもらう効果もあると思われる。

第二に、「PR」に該当する方法として、週刊新聞である『放送大学報』を活用している。毎年入学の時期に発行される新編入生特集号などに、全二面を割いて放送大の独自の学習方法を案内しながら、教材の重要性を強調する記事を載せるよう協力を要請する。実際に教材は重要なものなので、おおむね同意して記者たちが好意的に書いてくれる。『放送大学報』はジャーナリズム機能より機関紙としての性格が強く、学校の主要行事案内と政策広報、学習情報が主に載るので、教材広報も趣旨に合う。そして、学習と直接関係する教養科目の補充教材の「有料広告」も、中間試験と期末試験の二～三週間前に必ず載せる。キャッチフレーズは、〝前もって試験準備をして良い成績を取ろう〟という勧告の内容にして、公共性を確保するコンセプトにする。

第三に、「個人向け販売」に該当する方法として、学部新編入生のオリエンテーションを廻って、教材の大切さを広報しながら必ず買うように勧め、あわせて学習と関係がある単行本の販売などを行う。

第四に、「販売促進」の方法として、教材活用の優秀事例を公募する行事を開催する。職業や年齢層が多様な放送大学生が、自分の勉強方法を見つけて成功した事例を他の学生たちと共有しようという主旨で企画されたこの行事は、三年間にわたり実施されたが、教材中心の多様な学習方法を知ることができたと好評を得た。受賞作の主たる内容は、すべての講義は教材を中心に成り立つので、教材が一番基本的な学習資料であり、この教材を繰り返し学習し完全に熟知すれば良い成績を得ることができ、長く記憶に残る、というものだ。教材に対する信頼と愛着を高める内容だと言える。

② 単行本プロモーション

外部から見れば在校生一八万人という内部市場は羨ましいことだろう。年齢層、職業群、地域分布で見る時、韓国

歴史文化ライブラリー

全冊書下ろし　各1785円

301 都市鎌倉の中世史
秋山哲雄著　吾妻鏡の舞台と主役たち
従来のイメージを覆す新・都市論。

302 「国民歌」を唱和した時代
戸ノ下達也著　昭和の大衆歌謡
「うた」を通して戦争の時代を抉る。

303 日本国号の歴史
小林敏男著　なぜ、この国は「日本」というのか？　意味や由来を解明。

304 流行歌の誕生
「カチューシャの唄」とその時代
永嶺重敏著　歌が流行してゆく過程と、熱狂する人々の姿を描く。

305 時間の古代史
三宅和朗著　霊鬼の夜、秩序の昼
昼は人が作り、夜は神が作る…。古代の人々の感性と想像力に迫る。

306 高松塚・キトラ古墳の謎
山本忠尚著
中国との比較から、新旧の時代の要素が混在する古墳の謎に迫る。

307 幕末の世直し 万人の戦争状態
須田　努著　一揆から世直しへ。民衆たちは暴力の封印を解いた！

308 イングランド王国前史
アングロサクソン七王国物語
桜井俊彰著　語られなかった英雄たちの活躍を鮮やかに描き出す。

日記と歴史百科が１冊で便利！
歴史手帳 2011年版 900円

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格５％税込
http://www.yoshikawa-k.co.jp/

人口の特徴を反映した縮図と言っても過言ではない放送大学の学生たちは、しかし、不幸にも時間に追われている。職業を持つ学生が多いので、専攻科目の勉強だけでも精一杯なのだ。この学生たちに、教材の他に教養書や専攻の参考図書をどう売ればよいのだろうか。

第一に、「PR」に該当する方法として、教科目と連携して学内の教授を活用する。マーケティングミックスのなかの製品戦略とも関連するが、企画段階から学科の教科目と連携することができるアイテムを探したり、正規カリキュラムにない、より深い学習を願う学生に推薦できるアイテムを企画している。この時、執筆や翻訳、企画、筆者や翻訳者紹介などを学内の教授たちに依頼することで、本が出版された後に、その教授たちを自然に引き込んでPRに活用する戦略だ。教科目担当教授が単行本を推薦図書リストに入れ、広告する時も教科目の勉強に役立つという連繋性を強調することで、購入（学習）意欲を刺激する。特に、二〇〇八年末に初めて立ち上げて現在一七巻まで出版された「アロリ叢書」は、この戦略に従い良い販売実績をあげている。

第二に、学生たちが集まる所を尋ね、「PR」と「個人向け販売」を並行する方法だ。ソウルの大学本部の入学願書受付に簡易販売ブースを設置して、広報と販売を二年間行っているが、販売にもつながると共に、新編入生に出版部の存在を知らせる効果が大きいと評価された。そして、先にも少し言及したように、大規模学科のオリエンテーションに参加して教材の大切さと出版部の存在を広報している。経営学科の場合、ソウル地域のオリエンテーションに一〇〇〇人ほど参加するので、主催者側の協力の下に五分ほど、放送大の教材活用勉強法を説明し、これに関連した単行本を紹介しながら会場に特設販売台を設置する形態だ。

この他に学生たちを集める方法として、学習拠点となる地域大学で出版部主管の特講を開く方法がある。二〇〇九年に『叙述試験答案の書き方』について著者の特講を開いたところ、約一五〇人が参加し、販売のために持っていった本一〇〇冊が二時間で売切になった。著者による特講は、本に対する信頼度を高めると同時に、広報効果も非常に高い。学生たちは学習意欲を高める機会と著者に会う機会を得ることができ、出版部は本の販売とブランド広報効果を得ることになり、ウィンウィン（win-win）戦略だと言える。

上記の二つの場合、全て売台では特別割引価格を適用するが、学生たちは特別待遇を受ける共同体の一員だという感覚を刺激して、ブランドへの愛着を高める試みだと言える。

第三に、「販売促進」に該当する方法として、読書感想文を公募する行事を開催する。学科の勉強で時間に追われる学生たちに配慮して、夏休みの期間である七～八月の間に開かれるこの行事は五回目を迎えるが、二〇〇九年には

約四〇〇人が応募し、この期間に出版部のホームページだけで対象図書の売上が一五〇〇万ウォンほどと、賞金などの行事費用を上回った。学生たちの読書意欲を高め、売上も増大した成功例と評価し、現在は総賞金二三〇万ウォン、受賞人員一五名の規模を二〇一〇年には大幅に増やす計画だ。

外部顧客のためのプロモーション

① 教材プロモーション

放送大の教材は、主な顧客が学生なので在庫管理政策（約一五％内外維持）などの理由で、外部顧客に対しては積極的なプロモーションを行っていない。但し、年間四億ウォン程度の売上を記録している外部市場に対して、最小限のケアが必要だと判断し、次のような「PR」と「個人向け販売」を行っている。

第一に、放送大の教材の共同執筆者たちを対象に、教材企画段階で開催される「教材開発執筆者協議会」の時に、所属大学で講義教材として採択するよう依頼する。

第二に、図書目録を全国国公立及び大学図書館に年間一回配布し、PDFファイルの学部別図書目録を見られるようにリンクされた電子メールの挨拶状を、全国大学の関連学部と教授約一万名に年間一回発送する。

第三に、放送大の教材を講義教材として採択した経験がある教授たちを継続的に管理しており、教材として採択するために見本図書の要請があれば、一人五冊以内の範囲で無料で送る。

第四に、公務員試験や資格試験予備校を対象に見本図書を送って販売促進を行う。

② 単行本プロモーション

教養図書ブランド「知識の翼」と学術図書ブランド「エピステーメー」は歴史が浅く、中央日刊紙の出版担当記者に知られている程度に過ぎず、一般にはまだ認知度が低い状態だ。したがって、ブランド認知度を引き上げる努力が必要だが、まずは低費用でできる「PR」から始めた。

第一に、韓国の代表的ポータルサイトである「ネイバー（naver.com）」に二〇〇九年六月から試験的にオンラインブックカフェを開設して運営している（http://cafe.naver.com/knoupcafe）。単行本ブランドを大学と連携させて広報する戦略として、一般人に対する大学ブランド及び単行本ブランドの広報、読者（放送大学生を含む）と直接触れ合うチャネルの確保、などを目的とする。付随効果として、

二〇一〇年新学期に教材配送が円滑に進まない事態が発生した際、学生の請願処理に役立った。現在、加入会員は約七〇〇人と少数だが、書評コミュニティの運営と連携してもう少し拡張するために努力している。運営者は企画出版チームの編集者二人だ。

第二に、書評コミュニティを運営している。二〇〇九年八月に一〇〇人を募集して「思考の翼」という名前で始めた。初期段階のカフェに関する活性化方法について検討・協議し、「本と豆の木」（会員二万人）と「本が好きな人」（会員七万人）などを事前調査して始めた。運営方式は、図書当たり一〇～二〇人の書評者を募集・選定して新刊図書を送り、通常一週間以内に放送大出版部のオンラインブックカフェと自分のブログやカフェ、インターネット書店二～三ヶ所に書評や感想を掲載するものだ。一期一〇〇人のなかで、現在まで活発に活動している会員は約二〇人、二〇一〇年九月に第二期を募集する予定だ。

第三に、ソウル国際図書展で二〇〇五年から、大学出版部協会とは別に広報ブースを置いている。ファミリーブランドの立ち上げによるもので、独自のブランドコンセプトの展開が容易だという長所があり、学内外で良い反応を得ている。

この他に、メディア管理として主要な三～四社のみに年間一回程度、記者懇談会を開いており、一般読者向きの新刊刊行時には、報道資料と見本図書を直接または代行業者を通じて、三〇～四〇のメディアに送っている。これと共に、著者や翻訳者が勧める関連学会や機関にも広報資料と見本図書を送っている。

そして、予算規模は小さいが、広告は日刊紙よりインターネット書店を主としている。日刊紙や雑誌は、その年に戦略図書として選定し、集中的にマーケティングする場合にだけ含めており、残りについては効果が小さいだけでなく測定さえ難しいため避けている。小規模で展開するにはインターネット書店のバナーや検索窓の広告が効率的だと思われる。

小　結

このような戦略は短期的な売上増大を目標にしているが、長期的なビジョンを達成するために、ＩＭＣの観点で放送大出版部というブランドイメージを位置付けていく過程の一つでもある。このような認識の下に、あらゆる戦略で〝放送大の学生と生涯教育を希望する一般の人に、負担のない費用で質の高い情報と知識を伝達する、韓国最大の大学出版部〟というメッセージを発信し続けている。したがって、専従ではなく企画編集者が兼務する難しい状況でも、顧客との接点を増やすために、多様な技法を試みている。効果はまだはっきり測定することができないが、教材は内部市場維持と外部市場拡大を、単行本は内部市場（多くが社会生活をする学生なので外部市場と繋がっている）攻略を目標にして、戦略を持続的に開発、推進する予定だ。

また、新規顧客獲得戦略とともに、既存顧客を維持する戦略も開発している。今年、ホームページを再構築しながらインターネットショッピングモール機能を強化する予定なので、年間四〇億ウォン程度の売上となるホームページ購入顧客六万名の傾向を分析することができるようになる。そうなれば、もう少し体系的な個別マーケティングを試みることができるはずだ。

【参考文献】
金聖永・羅善娥『プロモーション管理』韓国放送通信大学出版部、二〇〇六。
韓国大学出版部協会『二〇〇九大学出版部年鑑』韓国大学出版部協会、二〇〇九。
韓国放送広告公社『二〇〇九消費者行動調査報告書』二〇〇九。
韓国出版研究所『韓国出版産業の危機克服方案研究』韓国出版文化振興財団、二〇一〇。

＊本論考は、『第一三回日本・韓国・中国大学出版部協会セミナー・講演録』に掲載された金廷奎「韓国の大学出版部のプロモーション戦略」の一部を抜粋し、訳文に若干加筆修正を加えたものである。

有斐閣 出版案内（価格は税込）
東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

ハーバード卓越の秘密
ハーバードLSの叡智に学ぶ
柳田幸男・ダニエル H.フット著
四六判 予価2625円
ハーバードの真の姿に二人の著者が迫り，その卓越の秘密を紐解く。

日韓比較民法序説
大村敦志・権　澈著
四六判 2625円
日本法と韓国法を民法学の立場から比較研究する意欲的な試み。

日本企業経営史研究
人と制度と戦略と
宮本又郎著 A5判 6825円
江戸から現代への日本企業の近代化プロセスを，幅広い視野で分析する。

病院の世紀の理論
猪飼周平著 A5判 4200円
20世紀の日本の医療システムを歴史的に位置づけこれからの医療を展望。

◉図書目録送呈◉

【インタビュー】

韓国の出版は、いま

――蔡星慧（チェソンヘ）さんに聞く

【解説】 蔡星慧氏は一九七〇年韓国大邱生まれ、二〇〇六年上智大学大学院博士課程修了、現在は東京情報大学・上智大学ほかにて出版メディア論などの非常勤講師を務めている。二〇〇六年には、日本の出版流通の歴史と特質を解明した『出版産業の変遷と書籍出版流通――日本の書籍出版産業の構造的特質』（出版メディアパル）を刊行し、日本出版学会奨励賞を受賞している。

来日前は韓国で四年半、書籍編集者として本作りに携わっていたこともあり、韓国の出版状況を細やかに把握し、日本と比較して論じられる数少ない研究者の一人である。現状についての全体的な俯瞰はもとより、前掲・金廷奎氏（韓国放送通信大学校出版部）の論考で触れられている宣伝・広報についての分析は、今回の特集を深く理解することに役立つはずである。読者の皆様の参考になれば幸いである。

（聞き手・構成　東京大学出版会・山田秀樹／橋元博樹）

韓国の出版状況

――韓国は隣国でありながらも、出版状況について私達は知らないことが多いのですが、まずは現状について教えてください。

現在、出版社の数は三万を超えています。出版社は登録制ですので、登録すれば出版社とみなされるわけですが、実際に継続して活動を行っているのは、そのなかの一〇％程度です。つまり、年間に一冊以上出版しているのは約三〇〇〇社です。

一方、書店数は三〇〇〇を少し超える程度です。出版社の数と書店の数の対比が日本とは異なり、日本は出版社の数が少なくて書店の数が多いのですが、韓国はその逆ですね。韓国では書店での本の販売が限られるという

ことです。

書店の状況としては、日本と同じように、教保（キョボ）文庫のような大型書店があり、シェアのほとんどを支配しています。韓国はオンライン書店化が非常に進んでいますが、教保文庫はオンライン書店のシェアでも一位です。

売上については、韓国は雑誌がそれほど売れる社会ではありません。書籍の売上は二兆ウォンを超える程度です。

――オンライン書店でのシェアが、日本ではアマゾンが一位ですが、韓国ではアマゾンではなく教保文庫が一位。その理由はどのあたりでしょうか。

これは、オンライン書店での販売が日本と比べて進んでいたなか、再販制の問題とも絡むいきさつがあります。

韓国では「再販制」という言い方ではなく「図書定価販売制」と言いますが、基本的には再販制を採っていました。そのようななか、一九九六、九七年頃にオンライン書店が出始め、その数が非常に増え競争が激しくなり、オンライン書店が一〇％割引を始めたのです。

事実上、定価販売制が成立しなくなりました。教保文庫もそれに対抗する形でオンライン書店に力を入れ始め、「マイリッチ制」という、日本のポイント・カードのようなサービスを大々的に行い、飛躍しました。

韓国はとにかくインターネット社会です。本三冊のうち一冊はネット書店で購入されると言われているほどです。そのような状況を踏まえて、大手の教保文庫がオンライン書店に力を入れたことにより、シェアを伸ばしていったのではないかと思います。

――書店が三〇〇〇店しかないというのは驚きです。

二〇〇〇年代に入りオンライン書店と大型店のナショナルチェーン展開が進み、中堅・大型店が増えている一方、街の小規模書店の廃業が増え、書店の数はさらに減っている状況です。二〇〇五年にバンディ&ルニスなどの大型書店が進出してきた結果、競争が激しくなり、教保文庫は地方への出店を積極的に進めていきました。

その教保文庫の地方展開により、歴史ある地方の書店が倒産させられてしまうケースも出ているわけです。

――韓国全体の年間総出版点数はどのぐらいですか。

二〇〇九年版の『出版年鑑』によると、書籍が四万二一九一点です。ちなみに、そのなかで韓国大学出版部の点数は合計一千点未満のようです。割合としては低いですね。

――発行部数と定価は、日本と比べていかがですか。

二〇〇九年版の資料によると、一般出版物の発行部数は平均で初版二七〇〇部を少し超える程度です。大学出版部の刊行物は一〇〇〇部未満の状況です。

定価は日本と比べると安いですね。一般出版物の定価は平均一万七四五〇ウォン。大学出版部の刊行物は平均一万五六九四ウォンですから、日本円に換算すると一五〇〇円程度でしょうか。

ご存知のように日本のほうが定価は高いのですが、ただ、私の来日以前の一二年前の状況と比べますと、韓国の定価はとても上がりました。以前は八〇〇〇ウォン、九〇〇〇ウォンで普通に本が買えましたが、いまは一万二、三〇〇〇ウォンすることも多いので、実感として五〇〇〇～六〇〇〇ウォンは上がっているように思います。

――流通はどのような仕組みですか。

韓国では、日本のような大手取次はなく、中小の流通会社を経由して書店に本が届けられています。直販の比率が高く、出版社が書店に直接本を届けることが多いのです。昔から「日本型取次モデル」を導入しようという意見が強くあり、実際、トーハンや日販に出向いて参考にしていたのですが、実現できていません。

日本の「取次」とは異なりますが、「総合販売」略して「総販」という、中間卸業者を利用する経路もあります。ただ、出版社の営業が直接書店に行って取引することが多いですし、先ほど申し上げたようにインターネット書店が数多いので、日本の取次ほど大きな存在感を示しているわけではなく、その役割は限定的です。

日本の出版社のように取次が全国の書店に配本し、その返品は各書店から取次を経由して出版社に戻ってくる仕組みもないわけではありませんが、韓国はあいだに介在する流通のプロセスが数多く複雑ですので、基本は出版社が直接書店と取引するスタイルです。ですから、いまはむしろ日本の取次を参考にするという発想はしぼんでおり、従来の韓国のやり方をベースに、複雑な流通の仕組みを改善していこうという気運になっています。

――返品はあるのですか。

返品は韓国も多く、日本よりは低いですが書籍は三〇％

を超えるぐらいです。

――先ほど話に出たことを繰り返すことになりますが、韓国は基本的に再販制、すなわち本の定価は日本と同様、一律と考えて宜しいのでしょうか。

韓国の場合オンライン書店で一〇％割引を始めてしまったので、事実上、定価販売制度は崩れているという議論が沸き起こり、協議の結果、二〇〇五年に五年時限再販制をつくりました。そのうえでこれから再販制をどうするかという議論をしていた段階で、二〇〇七年、改正法「出版文化産業振興法」において、新刊の場合オンライン・オフラインともに一〇％割引可能とし、新刊の基準を従来の一年から一八ヵ月にする、五年時限法の削除を踏まえた内容を公布して二〇〇八年一月から全面施行しました。

ですから、韓国の再販制は日本の感覚とは違うと思います。いまも再販制について議論している段階ですが、完全に崩れるとは思わないけれども、それが守られるか、気になるところです。

――最近の書籍出版の変化について、傾向として指摘できることはありますか。

日本で話題の電子出版については、韓国も同じように関心を持っています。韓国の出版界の特徴は、出版界が支援を求めることもあり行政主導のケースが結構見られることですが、電子出版についても行政に支援を求めています。まだ採算が取れていないのですが、韓国では何かひとつ始まると普及度が高く足並みが揃いやすいので、今回も一同に行政に支援を求めています。支援を得たうえで出版社で何かできないか議論をしているようです。ただ、著作権についての知識・意識は日本と比べると欠けているように思え、不安なところもあります。

そのほか、最近の傾向として指摘できるのは、もともと翻訳書の割合が高いなかで、ますます翻訳依存度が高くなっており、なかでも日本の原書が多く訳されていることです。

以前は欧米圏、とくにアメリカのものが多く訳されていました。ところが最近は、「日流」という言い方を聞かれたことがあると思いますが、二〇〇二、三年あたりから、日本の有名作家の新刊は高いアドバンスを払い日本での出版とほぼ同時に翻訳出版されていて、翻訳書でいま一番多いのは日本の作品です。なかでも一番多く翻訳されるのは文学関係で、次にマンガ、児童書となっています。いまの人気は東野圭吾さんとか宮部みゆきさんなどです。韓国読者の〝春樹マニア層〟を持っている村上春樹さんの『1Q84』は出版社の競い合いとなり、もっとも高いアドバンスを払いましたが日本と同様ベストセラー一位を占めまし

た。日本でも売れっ子の作品が良く読まれていますね。大学出版部の翻訳状況も調べましたが、日本の作品はアメリカの次に多く訳されています。日本の翻訳書は確実に増えています。

韓国の大学出版と宣伝・広報

――次は韓国の大学出版部についてお伺いしたいと思います。日本の大学出版部と比べたときの共通点は、金廷奎さんの論考にも見られるように大学の教科書を出版していることだと思いますが、それ以外に、日本の大学出版部で行っている学術書の出版、例えば博士論文の出版は行われているのでしょうか。

博士論文の出版も行われてはいます。ただ、日本の場合、学術振興会の科研費のなかに出版助成がありますので、それに随分助けられていると思うのですが、韓国には科研費的なもの、すなわち国の出版助成はほとんどありません。民間レベルでは、いくつかの財団が出版助成を行っていますが、国レベルからの支援としては、もちろん研究助成は行われていますが、そこから先の出版にまでは至らないのが現状です。

日本の場合、最近は出版助成を擁する大学が増えているようですが、韓国には出版助成を持っている大学はほとんどありません。したがって、私の周りの韓国の先生方も、研究成果を出版にまで結び付けるのに苦労しています。大学出版部が取り組むべき課題のひとつであるように思います。

――日本の科研費出版助成のような大規模な財政支援がないなか、韓国の大学出版部はどうやって採算をとっているのでしょうか。

大学出版部といえども販売部数を積み重ねて利益を確保するしかありませんが、専門書は販売が大きく期待できる世界ではありません。そこでいま、新しい方向が模索されています。

大学出版部であっても、商業性を追求しようという取り組みです。「ファミリー出版社」という言い方をしますが、民間ブランド的に、大学出版部が別の出版社名を登録し、そこで一般向けの学術教養書を出版して、大きく販売していこうとするものです。比較的うまくいっている出版部もあります。

二〇〇九年版の資料によると、大学出版部五九のうち、三九が大学の一機関型、独立運営型が一四、法人型が六、となっています。大学に所属しているケースが多いですね。それでも、学術書販売では採算がとれない、しかし財政的支援はそれほど期待できない状況が続くと、別の発想、すなわち商業出版社的な発想を採用して収入を補おうとし、

ファミリー出版社という発想が出てきたと思います。

――「ファミリー出版社」については、金さんの論考のなかでも新たな試みとして紹介されていますが、この論考でそのほか印象的なのは、宣伝・広報に限ったところでみても、インターネットへのシフトが日本よりもかなり進んでいるという点です。これは金さんが所属する韓国放送通信大学校だけではなく、全般的な傾向と理解して宜しいですか。

そうだと思います。インターネットへのシフトは出版業界だけではなく、新聞業界でも同じです。いま、若い人たちは紙の新聞を読むのではなく、ポータル・サイト上で読んでいます。日本では理解できないぐらい、韓国はネット社会なのです。

――ネット社会化以前は、韓国の場合も日本同様、出版社は新聞に広告を出して宣伝するやり方が一般的だったのですか。

そうですね。あと、書店廻りをして宣伝・広報するのが普通でした。ところが、九〇年代後半のＩＴ政策により、環境が一変したのです。ブロードバンドをアジアで最初に取り入れたわけですが、あれほど急速に進んだのは韓国だけではないでしょうか。

――日本の場合、いまだに多くの出版社は紙の新聞に広告を出し、あるいは宣伝効果として紙の新聞での書評に期待するのですが、韓国のようにインターネットへシフトしない理由をどう考えますか。社会的な条件の違いですか、それとも出版社の判断として二の足を踏んでいるということですか。

私からみれば、日本はまだ活字社会ですね。ネットで広告を出して効果が期待できるかというと、私は懐疑的です。それほど急速にネット社会化が進むようにも思えません。実際は、紙の新聞とネットどちらに軸足を置いて宣伝を行うかについて真剣に検討している出版社は、まだ多くない気がします。

ただ、私も大学で教えていて若い人と接するのですが、いまの若い人たちはネット中心の生活になっていることも多いので、今後は変わってくるかもしれません。

――金さんの論考のなかでもうひとつ印象的なのは、外部顧客への「単行本プロモーション」のなかで、〝知識の翼〟〝エピステーメー〟という新しいブランドの教養書を宣伝する際、ブックカフェを自らつくって宣伝したり、あるいは書評コミュニティを組織して、そこで自社

出版物の書評を書いてもらう試みです。インターネットを使った、単なる宣伝・案内以上の細工を施したこのような取り組みは、ほかにもあるのでしょうか。

ネット上で行っているかはともかく、中堅ぐらいの出版社でよくみられるのは、読書感想文の募集です。これは韓国に昔からありますね。大学出版部も行っています。

――書評コミュニティというのは聞いたことがありますか。

これは新しい試みだと思います。大学出版部の場合、学生が周りにいて書評コミュニティを結成しやすいので、やりやすいのではないでしょうか。ただ、専門的見地からの、しっかりした書評を載せるわけではない、アマゾンのブックレビュー的な発想かもしれません。韓国はネット上での書き込みが盛んですので、書評コミュニティのような活動は広がりやすいですし、効果も期待できると思います。

日本から学ぶこと、韓国から学ぶこと

――最後に、韓国が日本の出版界から学べることは何かありますか。

たくさんあると思います。例えば流通システムの整備や電子書籍への取り組みなど、韓国の出版界で新しい方向性を模索するとき、もっとも参考にするのは日本です。もちろん欧米のスタイルも参考にするのですが、日本と韓国は類似した環境ですので、情報収集の面からも参考にしやすいのです。

学術出版という面では、本の制作プロセスが丁寧なことや、大学出版部協会の活動もそうですが皆さん勉強・研究熱心です。議論する場が多い。韓国では、まず行政に支援を求め、それでできなければあきらめてしまう傾向があるので、もう少し腰を据えて将来ビジョンを考えてほしいと思うときがあります。

――逆に日本が韓国から学ぶべきこと何でしょうか。

出版社と読者の距離というのは、韓国のほうが近いと思います。ネット化が進んでいるからというわけではないのですが、韓国では読者のために何をすべきかという問い掛けを常に行っています。もちろん、日本でもまずは出版物を通して読者と向き合っているのでしょうが、出版社がもっと直接読者に向き合い、働きかけてくる場が増えたらと思います。

ナチュラルヒストリーの時間

大学出版部協会編　A5判／160頁／定価1680円

自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラルヒストリーを愉しむ

I. Prologue of Natural History

第１話　自然を記録すること……斎藤靖二

第２話　自然史と本……青木淳一

第３話　日本のナチュラルヒストリー……岩槻邦男

　コラム①　動物写真の世界

II. History of Nature

第４話　ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司

第５話　マリー・ストープスの２つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子

第６話　京都の語り部：深泥池……竹門康弘

第７話　遺跡の土に秘められた情報……松井　章

　コラム②　ききみみずきん

第８話　遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀

第９話　ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人

第10話　日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

III. Diversity of Nature

第11話　サクラソウとマルハナバチ……鷲谷いづみ

第12話　日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和

第13話　琉球列島の自然史……太田英利

第14話　マンボウと標本……松浦啓一

第15話　分類学事始め：タクソン，タイプ，名前……馬渡駿輔

　コラム③　サルにノミはいない？　幻の定説

IV. Story of Nature

第16話　クマ大量出没の謎……大井　徹

第17話　ふしぎの国のアリ巣……丸山宗利

第18話　現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫

第19話　子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲

第20話　熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗

第21話　殿様の自然史……松岡明子

第22話　幻のロバと男たち……木村李花子

第23話　食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー……周　達生

　コラム④　アリジゴクの自然史

V. Epilogue of Natural History

第24話　遺伝子を通した動物との対話……村山美穂

第25話　ゲノム時代のナチュラルヒストリー……西田　睦

　コラム⑤　小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一

自然史文献リスト

大学出版部ニュース

●夏季研修会と三カ国セミナーを終えて

二〇一〇年度夏季研修会と第一三回三カ国セミナーを終えて数ヶ月。今となっては酷暑の奈良が懐かしくさえある。三カ国セミナーは中国不参加による日・韓二カ国の変則開催ではあったが、質の高い報告書が双方より提出され、充実したセミナーであった。日・韓二カ国の展示図書への反応も良く、国際部会と関西支部の連携によるセミナー運営にも目を見張るものがあった。関係各位に改めて感謝。

●二〇一〇年度理事会・部会・懇親会

一二月三日開催の第二回理事会・部会は例年とは少々趣を異にする。「CHI学術市場向け電子書籍出版サービス」についての説明会が開催され、営業部会では「有効なFAX営業勉強会」が開催される。避けては通れぬ電子出版と、業績不振の出版業界の中で販促を模索する、双方とも喫緊の課題である。「勉強する大学出版部協会」の姿が、世代交代の中で脈々と生きている。

北海道大学出版会

▼樋口広芳・黒沢令子編著『**カラスの自然史―系統から遊び行動まで**』（A5判・三一五〇円）その賢さ故に悪者にされるカラス。18人の第一線の研究者が、4部15章構成で系統・生態・社会そして文化までを多角的に紹介する。

▼秋月俊幸編『**書簡集からみた宮部金吾―ある植物学者の生涯**』（B5判・四九三五円）内村鑑三・新渡戸稲造から牧野富太郎・マキシモヴィッチまで宮部宛の三〇〇〇通に及ぶ興味深い書簡の摘録。

▼近藤錬三著『**プラント・オパール図譜―走査型電子顕微鏡写真による植物ケイ酸体学入門**』（B5判・九九七五円）走査型電子顕微鏡写真二八〇〇枚を収録した図版篇と、研究史から同定のための注意点まで総合的に紹介する解説篇により、若手研究者や他分野の研究者も利用しやすいように編まれている。

▼在田一則・竹下徹・見延庄士郎・渡部重十編著『**地球惑星科学入門**』（A5判・二九四〇円）北大の地球科学スタッフ43名が総力を挙げてまとめた、4部33章からなる「基礎地学」教科書の決定版。

弘前大学出版会

▼『**ルート君と数楽散歩**』本瀬香著（A5判・一三六頁・定価一六八〇円）ルートをテーマとした3つの話題、「作図」、「算術幾何平均」、「平方剰余」について解説された数学の専門書で、いずれも若き日のガウスの偉業を現代の数学的立場から解説しています。

▼『**地方公企業の経営改革―自己経営評価と経営分析をとおして―**』藤田正一著（A5判・二三五頁・定価四五一五円）地方公企業の経営活動が地方公共団体の財政に過大な負担を招くことなく、かつ、自らの経営目的としての公益性を効率的、効果的に達成するための経営改革について究明することを目的とした一冊。

東北大学出版会

▼水原克敏著『**学習指導要領は国民形成の設計書―その能力観と人間像の歴史的変遷―**』（A5判、二九一頁、一六八〇円）

近代国家を建設した明治期から現代まで、日本はどのような国民像を理想として教育政策を進めてきたのか。年代ごとの学習指導要領を詳細に分析し、その理念と目的を明らかにする。

教育課程の構造改革が進むいま、教育の未来へ向けて、過去を歴史的に見通す力を示す一冊。

▼小河原誠著『**反証主義**』（A5判、三三三頁、三六七五円）

反証主義とは、科学哲学者にして社会思想家でもあったカール・ポパーの中心思想である。それは、実証主義とは根本的に異なるゆえに、多くの誤解にさらされてきた。本書はきわめて初歩的な段階から、ていねいにこの思想の体系的解説を試み、カオス論のような近年の話題にも触れて、この思想の今日的全貌を示そうとする。

科学哲学を超えて、ものごとを合理的に考えようとするすべての人々にとって必読である。

流通経済大学出版会

▼『**障害者旅行の段階的発展**』井上寛著（A5判上製・二四〇頁・三一五〇円）

障害者旅行のパイオニアである石坂直行氏が『ヨーロッパ車いすひとり旅』を出版してからおよそ四十年、現在のように障害者が自由に旅行できるようになるまでに、こんなに長い歳月が必要だったのはなぜか？

また、バリアフリー、ユニバーサルデザインといった用語があたりまえとなった今日、新たな論理による排除が出現している。二十一世紀の「観光」を研究する上で重要なテーマを、社会学のアプローチから分析し、現場を徹底的に取材した実証的良書となっている。

▼『**企業間関係の構造―企業集団・系列・商社―**』島田克美著（A5判上製・三六六頁・四二〇〇円）

▼『**社会学は面白い！―初めて社会学を学ぶ人へ―**』流通経済大学社会学部入門書編集委員会編（B5判・二八〇頁・一五七五円）

▼『**貨幣と市場の経済思想史―イギリス近代経済思想の研究―**』小池田冨男著（A5判・三九二頁・定価四四一〇円）

聖学院大学出版会

▼岩尾貢・平山正実著『**とことんつきあう関係力をもとに――チームによる高齢介護と精神ケアをめざして**』（福祉の役わり・福祉のこころ3、A5判並製、定価未定）

認知症高齢者のケアと精神科医療においては、これまで施設に隔離し、ケアを受ける方々の人間としての尊厳や人格を省みない対応が多くあった。

岩尾氏は、精神科のソーシャルワーカーであったが、認知症患者が何を求め、何を願っているかを考慮しない福祉サービスに疑問を持ち、ひとりひとりの認知症高齢者が、生き生きと地域で交流しながら生活できるグループホームを立ち上げた経緯を語る。

平山氏は、ひとりの患者が社会で活動できるようになるまでに、精神科医だけでなく、臨床心理士、看護士、作業療法士などさまざまな立場からのチームワークによるケアが必要であると語る。

本書には、高齢者ケアと精神科医療という領域の違いはあるが、共通して福祉の原点にあるひとりの人間を大切にするという視点が貫かれている。

聖徳大学出版会

▼村井靖児著『**音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係―**』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）音楽療法の第一人者である著者の、長年にわたる研究をベースにし、専門的でありながら一般の読者にもわかりやすい内容となっている。音楽療法は心身の病理に対してどのような効果をもたらすのか、音楽はなぜ心を癒すのか、心と音楽との関係を解き明かす。

▼森彪著『**医における癒し―人間関係の形成のなかから―**』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）本書では小児科医の医療現場での経験をもとに、病気と闘った人たちの実例が紹介され、著者との交流が描かれている。純粋な医学書ではなく、高度に発達した現代医学において人間的交流の必要性を強く訴えかけている。

▼高橋大海監修・Jソロイスツ歌唱『**親子で楽しむ唱歌集**』（音楽CD・三四〇〇円）文部唱歌をはじめ、「春が来た」、「小さい秋みつけた」など文化庁「親子で歌いつごう日本の歌百選」にも選定された二三曲を含む全四二曲が収録されている。

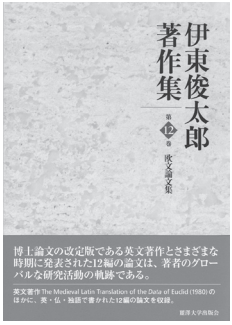
麗澤大学出版会

▼福田恆存著『**福田恆存評論集第十七巻私の幸福論**』（二九四〇円）この世に生まれた以上、幸福になる責任がある――標題作の他に「恋愛と人生」等を収める。

▼福田恆存著『**福田恆存評論集第十八巻反時代的人間**』（二九四〇円）「コリオレイナス」名せりふに藉りて戦後日本の偽善と感傷を叩く――標題作の他「福田恆存全集」未収録作品を収める。

▼伊東俊太郎著『**伊東俊太郎著作集第十一巻　対談・エッセー・著作目録**』（八一九〇円）江上波夫他の対談やエッセーと自伝を収録。

▼伊東俊太郎著『**伊東俊太郎著作集第十二巻　欧文論文集**』（八一九〇円）博士論文の改定版の英文著作他を収録。本書の刊行にて、著作集が完結。



慶應義塾大学出版会

▼ゴードン・S・ウッド著『**ベンジャミン・フランクリン、アメリカ人になる**』（三七八〇円）ピューリツァー賞、バンクロフト賞受賞の歴史家ゴードン・S・ウッドが、これまでのフランクリン像を刷新する、傑作評伝。

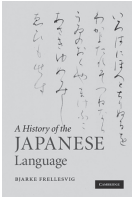
▼水上瀧太郎著『**貝殻追放　全三巻**』（二一〇〇〇円、分売不可）「三田文学」創刊百年記念出版として、実業と文筆と「三田文学」の編集に尽力した水上瀧太郎の文筆の最高傑作といわれる『貝殻追放』の全編を収録する随筆集。

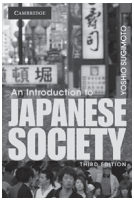
▼髙木晴夫監修・竹内伸一著『**ケースメソッド教授法入門―理論・技法・演習・ココロ**』（二九四〇円）慶應ビジネス・スクールが半世紀をかけて育んだ「学びの共同体」構築の理念と手法を徹底的に解説。ケースメソッドで教えたい人必読の1冊。授業ライブDVD2枚付き。

▼植田和男編著『**世界金融・経済危機の全貌―原因・波及・政策対応**』（六〇九〇円）。リーマンショックを契機に世界を混乱に陥れた金融・経済危機について、第一線の研究者が徹底検証。「危機後」をも視野に入れた本格的論考集。

ケンブリッジ大学出版局

▼A History of the Japanese Language（Hardback 9780521653206 USD 130）どのように日本語が発展、改良されてきたかを、古代日本語・初期中世日本語・後期中世日本語・近代日本語の四つの部分に分けて解説。日本語のみならず、言語がどのように変化していくかに興味がある人にもお薦めの一冊です。





▼An Introduction to Japanese Society, 3rd Edition（Hardback 9780521879569 USD 85, Paperback 9780521705196 USD 29.99）日本社会論の定本とされる、オーストラリア・ラトローブ大学の杉本良夫教授著の大ベストセラー『日本社会入門』が約八年振りに改定されました。第三版では、日本の文化資本主義、日本のマネジメントモデルの衰退、政府の変化、海外におけるマンガやアニメなどの大衆文化の広がり等に焦点をあてて述べられています。

産業能率大学出版部

▼市川利夫著『**やさしく学ぶ　簿記入門**』（一五七五円）会社数字の基本中の基本である簿記について、初学者の目線からやさしく解説した入門書です。

▼市川利夫・向川寿人著『**やさしく学ぶ　原価計算入門**』（一五七五円）専門性が高いと感じる人が多い原価計算について、様々な場面から原価計算を解説し、さらに高度な原価計算までをやさしく解説しています。

▼産業能率大学生産性向上研究プロジェクト編著『**仕事の生産性を高めるマネジメント**』（二一〇〇円）産業能率大学の創立者である上野陽一が提唱した「能率十訓」を「能率遂行人の心得」として紹介し、〝能率遂行人〟をめざすとともに、メンバーの育成と仕事の生産性を高めるマネジメントのあり方を解説しています。

▼武田哲男著『**売れる営業　一〇の極意**』（一八九〇円）ここに集約した一〇の極意が、営業を成功に導き、目標達成・成果を生む原動力となる。共通した成功例から売れる営業になるための極意がわかる、営業の必読書。

専修大学出版局

▼経営情報学会情報システム発展史特設研究部会編「**明日のIT経営のための情報システム発展史シリーズ**」全4巻『**総合編**』『**製造業編**』『**流通業編**』『**金融業編**』（A5判・各二九四〇円）

日本的な知恵を傾注したオンラインと、世界に冠たる情報システムの発展過程を調査・分析して、そこからの知見と教訓を明らかにした画期的シリーズ。

『総合編』では、わが国における情報技術と情報システム発展過程を総合的に検証し、ITと経営の関わり、人間と組織、社会との関わりなどを跡付ける。『製造業編』では大手メーカー6社の独自システムの開発過程を論じ、システム開発者の思い、情熱などが浮き彫りにされている。『流通業編』では、厳しい競争にさらされる流通業6社の情報システム発展史が考察され、経営を支えるために先達がいかに知恵を絞ってきたかがわかる。『金融業編』では一国経済の歴史的所産であるともいわれる金融情報システムが、金融システム改革に果たしてきた役割を検証し、今後の新たなあるべき役割を考える上での体系的な現状把握を試みる。

大正大学出版会

▼大正大学社会福祉研究会編『**人間っていいな　社会福祉原論Ⅰ**』（A5判　一八七頁　一八九〇円）　社会福祉の思想・歴史・原理・方法・分野など、社会福祉を学ぶための入門書。

▼大正大学社会福祉研究会編『**ソーシャルワーカーの社会福祉原論Ⅱ**』（A5判　二四八頁　一八九〇円）ソーシャルワーカーを目指す学生必携の書。

▼中村敬著『**子どもの健康と福祉―人間学を学ぶ人のための子どもの科学**』（A5判　一九八頁　一五七五円）　子ども期全般を通した健康・病気・福祉の諸問題について論述。

▼野田文隆著『**マイノリティの精神医学―疾病・障害・民族少数派を診つづけて**』（A5判　六三二頁　五九八五円）。

▼司馬春英・星川啓慈編『**教養のリメーク―大学生のために**』（新書判　三八六頁　七六〇円）。

《近刊》

小澤憲珠監修『**浄土教の世界**』四六判　三六〇頁　一九九〇円。

中村敬著『**小児科医が語る子育て支援**』四六判二八〇頁　一九九〇円。

玉川大学出版部

▼企画編集＝橋本鉱市・阿曽沼明裕『**リーディングス　日本の高等教育**』全8巻（A5判・平均三七六頁・各四七二五円）　高等教育研究に新しい視座を提供する重要文献を精選。論文とその解題、基本文献の解説から、テーマの全貌を明らかにする。高等教育研究の入門書、授業での基本文献集に最適。

第1巻　**大学への進学―選抜と接続**（中村高康編）／第2巻　**大学の学び―教育内容と方法**（杉谷祐美子編）／第3巻　**大学生―キャンパスの生態史**（橋本鉱市編）／第4巻　**大学から社会へ―人材育成と知の還元**（小方直幸編）／第5巻　**大学と学問―知の共同体の変貌**（阿曽沼明裕編）／第6巻　**大学と国家―制度と政策**（村澤昌崇編）／第7巻　**大学のマネジメント―市場と組織**（米澤彰純編）／第8巻　**大学とマネー―経済と財政**（島一則編）＊①③⑤⑥巻は発売中、②④⑦⑧巻は二〇一一年一月刊行予定。

中央大学出版部

▼阿部泰隆著『**行政法の進路**』（五七七五円）新司法試験・法科大学院で必修となった行政法学が今後進むべき方向を総合的に示す。行政法の体系化、解釈論、政策法学の全般にわたる。さらに、著者の理論の裁判による実践を報告するなど行政法学全般の総合的な考察をする。

▼イアン・クラーク著／滝田賢治訳『**グローバリゼーションと国際関係理論**』（三六七五円）流行語とすらなっているグローバリゼーションは、国家の外部から国家・社会に襲い掛かる現象というイメージが強いが、著者は「国家がグローバリゼーションを生み出し、そのグローバリゼーションによって国家が変容を余儀なくされている」と新たな視点を提供。

▼松野良一監修『**戦争を生きた先輩たちⅠ・Ⅱ**』（Ⅰ・二八三五円、Ⅱ・二六二五円）「約六〇年前にタイムスリップしたら、僕は特攻機に乗っていたかもしれない…」。現役の大学生が、戦争を体験した先輩を探し出し取材した。戦争とは、軍隊とは、青春とは、平和とは。そして、取材した学生が思ったことは何か。後世に残されるべき渾身の力作。

東京大学出版会

▼シリーズ「**現代日本の紛争処理と民事司法**」（全3巻）

初めての大規模な全国調査をもとに、経験的なデータをふまえて日本の民事紛争過程に関する論点を掘り下げた、法社会学研究の最新成果。

第1巻『**法意識と紛争行動**』（松村・村山編、五八八〇円、九月刊）は、日本人の法に対する態度や裁判所イメージを通して法意識を分析。問題を経験した当事者の紛争処理行動に法意識はどのようにかかわるのかを探る。

第2巻『**トラブル経験と相談行動**』（樫村・武士俣編、五八八〇円、十月刊）は、日本人がトラブルに遭遇した際の行動を分析する。相談者が解決に向けてどのような相談機関を頼るのか、また相談した結果をどう評価しているのか等を明らかにする。

第3巻『**裁判経験と訴訟行動**』（フット・太田編、五八八〇円、九月刊）は、民事裁判における原告・被告の社会的属性、女性当事者の裁判イメージ、和解・交渉の実態等を解明し、国民と法システムのかかわりを考える。

東京電機大学出版局

▼T・ホーほか著／河東晴子ほか訳『**ネットワークコーディング**』（二一六頁・三四六五円）ネットワークコーディングは二〇〇〇年の論文から端を発した新しい技術である。複雑なネットワークにおいて、各ノードで複数のパケットを混ぜ合わせることで、効率のいいデータ送信を実現する。本書では、そのネットワークコーディングに関する技術および理論を概説書としてまとめている。日本語の書籍としては、ネットワークコーディングに関する初めての一冊となる。通信ネットワーク技術者必携の一冊。

▼丸井洋子著『**大学入門ドリル　線形代数・行列と行列式**』（二一六頁・一九九五円）授業の内容がいまひとつ理解できない学生向けのテキストである。理工系全学科の新入生を対象として実際に学生に教える際に好評だったプリント教材をもとに、書き込み式で問題を解いていく演習書。各項目ごとに「説明・例題・練習問題」という順で構成されている。問題量が豊富で、解説も丁寧なため、一人での学習にも適用でき、かつ、授業の予習・復習・試験対策にも最適である。

東京農業大学出版会

▼『**アルバムに見る農学校の昭和史**』松岡　斉編著

著者は、大学在学中から農業問題を専門にする写真家を志す。教師として江戸崎高校に一九六八年に赴任、このアルバムと出会う。著者の世代は戦争、困窮そして繁栄と価値観の逆転するような時代だった。アルバムとの出会いは戦後農業高校へ入学した著者の農業学習の追体験となりこの本に連なった。

平成二十二年六月／A四変形／一三八頁／税込価格二五二〇円

▼『**写真集　田**』宮澤雅隆著

「米を食べ、米で生きている。日本人が決して忘れてはならない原風景は田圃である。そこには日本人の命が宿り、命が託されている。その田圃で育まれていく稲と、それを愛しく見守っていく農民たちの姿。その兼ね合いと風習を、詩人が目と言葉で表現して、田圃を忘れはじめた日本人へ今だからこそ伝言する。そんな抒情詩が本書である。」（東京農大名誉教授小泉武夫、本書の帯の言葉から）

平成二十二年四月／A四／三一四頁／税込価格一二六〇〇円

東京農工大学出版会

▼『**蝶の道―Butterflies―**』（A4変形版・一三六頁・三七八〇円（税込み））

昆虫写真家・海野和男による蝶の写真集。本書は、世界と日本各地で、風景とともに撮影した蝶の生態写真約一二〇点をまとめたものである。

海野和男には、十才の頃に長野県で水を飲みに路上におりていた蝶たちが一斉に飛び上がる光景を見た体験がある。その写真家は、二〇〇六年にペルーのアマゾンで、無数の蝶が飛び交う路上を歩いていた。この時、少年時代の蝶との出会いが、鮮明によみがえり、そこから本書は生まれた。写真解説は、一六頁をさいて掲載。「蝶を撮り続ける」という章には、三〇年ほど前から同じコンセプトで撮影してきた写真を十二点ほど解説とともに掲載している。蝶の本格的な写真集としては、十五年ぶりとなる渾身の書である。

法政大学出版局

▼柳父章ほか編『**日本の翻訳論**』（三四六五円）近代日本の翻訳論の歴史を、明治期から大正期にかけての代表的テキスト三一編と、現代の翻訳研究者によるその解題を通じて総合的に批評する。

▼W・メニングハウス／竹峰義和ほか訳『**吐き気**』（九一三五円）一八～二〇世紀の「吐き気」の形象の変遷を包括的に検証し、西欧近代の〈美学＝感性論〉の可能性を浮かび上がらせた画期的成果。

▼牧野英二『**増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！**』（二九四〇円）蔵書に遺された和辻自身による膨大な書き込みを調査・検証し、毀誉褒貶激しい和辻思想の今日的意味を再検討するための基礎文献。

▼矢野憲一・矢野高陽『**楠**』（三三六〇円）大木となることから生き方のモデルとなり、また信仰の対象ともされ、さらに医薬品や防虫剤の原料にもなる、楠と人間の深い関わりの歴史を跡づける。

▼J・アーリほか編／近森高明訳『**自動車と移動の社会学**』（六一九五円）自動車を単なる生産と消費の対象としてではなく、二〇世紀の時間－空間的編成を支えてきたシステムとして把握する試み。

武蔵野大学出版会

▼佐藤佳弘著『**わかる！伝わる！プレゼンカ―レポート発表も採用面接も怖くない！**』（A5判・一六八頁・一七八五円）

あがり症でも内気でも、練習しだいでプレゼン上手になれる、とこの本は説く。「上達には努力が必須」いう厳しさと、努力が実るコツを伝授する親切さを兼ね備える本書は、就活大学生や新人社会人に最適なテキストである。

▼浅川公紀著『**戦後米国の国際関係**』（A5判・四二八頁・三四六五円）

ルーズベルトからオバマまで、第二次大戦後の十三人の大統領の外交政策を俯瞰する。数々の危機を経た米国と世界の六十五年を振り返る。

武蔵野美術大学出版局

▼「電子書籍」という言葉が新聞に載らない日はないが、弊社では昨秋、非売品ながら、同一のコンテンツを電子媒体と紙媒体で同時に発表する機会があった。本学ファカルティ『武蔵野美術大学専任教員プロフィール集』の制作である。(http://www.musabi.ac.jp/kyoumu/profile/)

B5版の冊子では教員一人につき二頁で構成される。基本フォーマットという概念は通用せず、個々の教員ごとに異なる二八六頁のレイアウトを楽しめる趣向である。冊子版のこのテイストをいかに電子版で表現するか。それぞれのデザイナーとの協同作業を経て、いずれの媒体でも「編集」という仕事が、まったく変わらずに存在することを発見した。

しかし、「束ねる」という行為がないのは電子版の寂しいところだ。昨秋刊行の白石美雪**『ジョン・ケージ　混沌ではなくアナーキー』**は「ケージの実験的な音と静寂が視覚化されている」と七月に造本装幀コンクール審査委員奨励賞を受賞した。美大で音楽の本?と言われつつ、この秋、第二〇回吉田秀和賞の知らせが届き、改めて書籍の重みを感じている。

明星大学出版部

▼**『ここから始めよう　小学校英語―楽しい指導の第1歩』**
渡邉時夫・佐藤令子・粕谷恭子著
B5判・一六四頁・一二六〇円

平成23年度から小学校「外国語活動」として英語教育が始まる。英語によるコミュニケーション能力の素地とは何か、それを築くための望ましい指導法は何か。早期英語教育の研究、小学校英語教育の実践活動、英語教員養成の仕事に携わってきた3名による教育法・指導法入門。

▼**『教員・教職志望者のための教育法の基礎―教育政策の法制・組織・財務』**
樋口修資著
A5判・三六八頁・二三二〇円

法制・組織・財務に関する教育法規・判例を、今日的観点から15章に分けて解説。ミニマム・エッセンスを摘示・叙述して、学校、教育の場における様々な事象をどうとらえるべきか、その判断と対応を示唆する。脚注形式で【キーワード】欄を設け、具体的事例をコラムで紹介した。

▼**『算数科教育の研究』**
小野英夫著
A5判・二三〇頁・一四七〇円

関東学院大学出版会

▼**『コミュニティ・オーガニゼーション統合化説―マレー・G・ロスとの対話』**
山口稔著（三七八〇円）マレー・G・ロスのコミュニティ・オーガニゼーション統合化説に関する書籍、論文、草稿・講義録等の歴史的資料を駆使、発展史的に読み解いた研究書。現代の地域福祉に甦るロスの思想と理論が今日的課題に応える。

▼**『ネットワーク商品論』**石崎悦史著（二一〇〇円）ネットワーク商品論とは本邦初の本、どの商品も他の商品との関係や関連なしで成立しない。とくに現在は消費者がネットワークのどの部分を評価して購入するかという点の変化が早く激しいので、この視点の有効性を主張する。

東海大学出版会

▼『**海のプロフェッショナル―海洋学への招待状**』窪川かおる編・女性海洋研究者チーム著　A5変判　一八六頁　定価（本体一二〇〇円＋税）

海洋学の世界で活躍する二一名の女性研究者執筆による未来の海洋研究者を目指す若者へ向けた、海洋学への招待状。「学ぶ」「進学する」「仕事にする」の三部構成に加え、Q&A・海に関するおすすめ本・海にかかわる機関およびWebサイトを収めた「付録」を掲載し、女性海洋研究者の日々の研究活動や第一線での仕事の現場を紹介する。付録に収められた「Q&A」では、「先生」と「海子ちゃん」の対話形式を用いて海洋学の楽しさや苦難、女性研究者ならではのエピソードなど、わかりやすく紹介している。女性のみならず男性にも楽しんでいただける一冊。

名古屋大学出版会

▼上島享著『**日本中世社会の形成と王権**』（九九七五円）十世紀に始まる中世社会・王権の形成過程を、政治・宗教文化・社会経済にわたり動態的に描いた全体史。

▼吉川卓治著『**公立大学の誕生―近代日本の大学と地域―**』（七九八〇円）大学と地域の関係はいかにあるべきか。公立大学理念の形成過程と内実を解明する。

▼中村尚史著『**地方からの産業革命―日本における企業勃興の原動力―**』（五八八〇円）地方が最も輝いた時代の姿を捉え、今日の地方再生の手がかりを探る。

▼O・A・ウェスタッド著　佐々木雄太監訳『**グローバル冷戦史―第三世界への介入と現代世界の形成―**』（六九三〇円）冷戦史を根底から読み直し、現代世界の起源をも示した注目作。

▼チャールズ・テイラー著　下川潔／桜井徹／田中智彦訳『**自我の源泉―近代的アイデンティティの形成―**』（九九七五円）テイラーの主著、待望の邦訳。

▼下野恵子／大津廣子著『**看護師の熟練形成―看護技術の向上を阻むものは何か―**』（四四一〇円）日本の医療制度と病院、看護教育の現状から考える。

三重大学出版会

▼『**宇和海まき網の経済**』田中皓正著、A5版166頁（定価二九四〇円）。

■宇和海網元の決算報告。

■はじめに　■第一章　宇和海のイワシ網と網元の変遷　1、江戸時代　2、日振島の漁村―浦の農業と漁業　■第二章『伊予宇和島に於ける舊漁業聞書』について　■第三章昭和四年藤本網「水魚帳」による代分け　■第四章昭和一五年藤本網「水魚帳」による代分け　■第五章昭和一八年藤本網　「手板帳」による代分け　■おわりに／第三章の昭和四年は、世界恐慌の始まった年、第五章の一八年は、第二次世界大戦の敗色が現れ、物価統制が強化された年に当たる。決算書には、漁具・漁法を改善して経済恐慌を切り抜け、網子の現物支給を増やして、物価統制を乗り切る工夫が現れている。

▼『**経度の誕生―経度委員会と大英帝国1714年～1828年**』石橋　悠人著　A5　254頁　二四一五円　■第1章再発見された経度　■第2章経度の追求　■第3章科学組織としての経度委員会　■第4章経度と帝国　■第5章再編と解散

京都大学学術出版会

▼『**住友本社経営史**』（上・下）山本一雄著（各巻八四〇〇円）近代日本を代表する財閥たる住友グループ。戦間期住友研究の視角を継承してその前後史を網羅、公刊史料の他、内部史料や口承記録をも参照して住友の意志決定プロセスを多層的に描出する。黎明期から財閥解体までをたどる新たな住友研究。

▼『**中立国スイスとナチズム―第二次大戦と歴史認識**』独立専門家委員会第一部原編／黒澤隆文編訳（九四五〇円）第二次大戦期のヨーロッパ社会を席巻したナチズム。その過去をどう受け止め、将来へ繋いでゆくのか。ドイツ周辺諸国の戦後史に再考を迫った論争的な本書は、日本と東アジアの歴史認識論争にも多大な示唆を与えよう。

▼『**生殖・発生の医学と倫理―体外受精の源流からiPS時代へ**』森 崇英著（二四一五円）生命の絶対観から生命の相対観へ、そして生殖の尊厳の思想に立った倫理へ――体外受精を逸速く成功させると共に、その倫理性を保証するための制度を初めて確立した著者が、貴重な歴史経緯を開陳し生殖医学の思想を示す。

大阪経済法科大学出版部

▼『**未来を発信する八尾・環山楼市民塾2009**』（仮題）（環山楼市民塾運営実行委員会編・予価一五七五円）十一月刊行予定。

江戸時代後期から幕末にかけて、商家や農家の人々が中心になって開校された私塾が全国に多くありました。環山楼は、江戸時代中期の八尾の豪商であった石田善右衛門利清が所有する建物の一部を私塾としたもので、儒学者である伊藤東涯は、山々に囲まれた眺望を望められることから環山楼と命名したと伝えられます。

環山楼の建物は、現在は八尾小学校の横に保存され、八尾市指定文化財に指定されています。

現代版環山楼市民塾は、八尾を中心とした民産学官からなる実行委員会を設置し、「これからのまちづくりに必要な知識をまず習得してもらおう。そして、今後のまちづくりに参画していただこう」という掛け声の基に二〇〇八年一〇月から経済問題、環境問題、まちづくり、情報化等々の講座が開催されてきた。

本書はこの環山楼市民塾の二〇〇八年度の講演記録集である。

大阪大学出版会

▼鷲田清一監修『**ドキュメント臨床哲学**』（シリーズ臨床哲学1、四六判・二三一〇円）大阪大学に「臨床哲学」が発足して一〇年。研究室と現場を往還し、哲学の新しいあり方を模索する。▼和田章男著『**フランス表象文化史―美のモニュメント**』（四六判・二一〇〇円）建築・美術・文学・音楽…「古さ」と「新しさ」が調和したフランス表象文化を紹介。

▼平田達治著『**ベルリン・歴史の旅―都市空間に刻まれた変容の歴史**』（四六判・二三一〇円）歴史の荒波に翻弄されたベルリンの過去と現在。写真、地図多数。統一20周年記念。▼岸田知子著『**漢学と洋学―伝統と新知識のはざまで**』（四六判・一七八五円）漢学で得た知識は、洋学の受入れに役立つことがある反面、足かせともなった。日本が近代化に歩みだすまでの知識人の苦悩と道程を描く。

▼永井利三郎監修『**発達障害の子どもの理解と関わり方入門**』（A5判・二六二五円）PDD・ADHDの支援に関わる医療・教育関係者、学生や保護者へ向け、その特性から支援システム、アセスメント・診断、具体的支援策まで詳説。

関西大学出版部

▼大塚　忠著『**ドイツの社会経済的産業基盤**』（A5判・四二〇〇円）現代ドイツの人材育成、労働組織、市場経済の中で労働者を労働組織に誘引する報酬制度、これら三つのグローバル競争の中での変遷を二〇年間にわたって描き出す。

▼永田憲史著『**死刑選択基準の研究**』（A5判・二九四〇円）永山事件以降の全死刑判決及び検察官上告事件を検討し、死刑と無期懲役の基準を明らかにする。あわせて、犯行当時少年の被告人に対する基準を検討するとともに、光市事件判決を理論的に分析する。

▼高橋秀彰著『**ドイツ語圏の言語政策―ヨーロッパの多言語主義と英語普及のはざまで―**』（A5判・二六二五円）EUで最大の母語話者数を誇るドイツ語が、多様性と統一性のはざまで苦闘する言語政策に迫る。ドイツ語圏スイスも含む。

▼森部　豊著『**ソグド人の東方活動と東ユーラシア世界の歴史的展開**』（A5判・三九九〇円）ソグド系武人が、七世紀から一〇世紀の東ユーラシア世界の歴史に密接に関わっていたことを編纂資料や新出の石刻史料を駆使して明らかにしたもの。

関西学院大学出版会

新刊

▼岡田弥生著『**ウィリアム・フォークナーのキリスト像―ジェレミー・テイラーの影響から読み解く**』（A5上製・三四二頁・定価三九九〇円）フォークナー作品を解く宗教概念が、「時間はキリスト」であることを明確にする

▼澤谷敏行編著『**大学教職員と学生のための中国留学・教育用語の手引き**』（四六並製・一二八頁・定価一八九〇円）中国の大学に関連する教育用語を解説

▼石原俊彦・鈴木信義編『**地方自治体ファイナンス**』（A5並製・一七二頁・定価一九九五円）地方自治体の資金調達や運用に焦点をあてる

▼有道雅信著『**教職って？　学校って？―教師を目指すあなたに　学生の質問に答える**』（A5並製・一八六頁・定価一七八五円）長年の教師経験をもとに学生の疑問に答える

▼窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章編著『**スピリチュアルケアを語る　第三集―臨床的教育法の試み**』（A5並製・一七二頁・定価一六八〇円）ケア・ワーカーの人材育成プログラムを紹介

九州大学出版会

▼大宅明美『**中世盛期西フランスにおける都市と王権**』（A5判・六七二〇円）王権が都市を行政代理として積極的に利用するようになる過程を考察。第一回九州大学出版会・学術図書刊行助成対象作。

▼河野明日香『**「教育」する共同体―ウズベキスタンにおける国民形成と地域社会教育―**』（A5判・四四一〇円）新国家建設に際して、イスラームの伝統に則った地域共同体＝マハッラが果たす役割と課題を探る。

▼稲葉継雄『**朝鮮植民地教育政策史の再検討**』（A5判・五〇四〇円）歴代の朝鮮総督や学務官僚の言動の分析から、植民地教育政策の全貌を明らかにする。九州大学韓国研究センター叢書第1巻。

▼幸節雄二『**構造振動学の基礎**』（A5判・四六二〇円）運動方程式の誘導と解法から応用理論まで、日本の液体ロケット開発の最前線で活躍した技術者が詳説。

▼E・ラスムセン／細江守紀他訳『**ゲームと情報の経済分析［基礎編］**』（A5判・三一五〇円）ゲーム理論と情報の経済学、社会科学の基礎的視点を学べるテキスト。［応用編］は二〇一一年刊行。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員

【50音順】2010年11月30日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
亜細亜印刷株式会社	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
株式会社大森印刷	〒105-0003 東京都港区西新橋3-17-1
岡本出版発送株式会社	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・ジャパン株式会社	〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町2-1-1 アスパ日本橋オフィス
城島印刷株式会社	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社京都学術振興会	〒605-0009 京都府京都市東山区大橋町88-1 辻野ビル2F-A
株式会社クイックス	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
港北出版印刷株式会社	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-4 ダイニックビル7F
株式会社太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11
株式会社トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-9-5
萩原印刷株式会社	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 6F
株式会社平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
ベル製本株式会社	〒112-0014 東京都文京区関口1-17-5
宗教法人法界寺	〒287-0003 千葉県香取市佐原イ-1057
株式会社堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
株式会社遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧（掲載順）

みすず書房	〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-21
未來社	〒112-0002 東京都文京区小石川3-7-2
吉川弘文館	〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8
有斐閣	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

一般社団法人大学出版部協会　加盟出版部一覧

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目 北海道大学構内
TEL 011-747-2308　FAX 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1番地 弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168　FAX 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学構内
TEL 022-214-2777　FAX 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-64-0001　FAX 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL 048-725-9801　FAX 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111　FAX 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3320　FAX 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168　FAX 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL 03-5479-7265　FAX 03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階
TEL 03-6266-2400　FAX 03-3211-1400

専修大学出版局
〒214-0033 川崎市多摩区東三田2-1-2 専修大学購買会別館2階
TEL 044-911-7179　FAX 044-911-1382

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL 03-5394-3026　FAX 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351　FAX 042-674-2354

東京大学出版会
〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学構内
TEL 03-3811-8814　FAX 03-3812-6958

東京電機大学出版局
〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
TEL 03-5280-3433　FAX 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL 03-5477-2666　FAX 03-5477-2747

東京農工大学出版会
〒183-8509 府中市幸町3-5-8　東京農工大学内
TEL 0423-67-6700　FAX 0423-67-6700

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-7 法政大学一口坂校舎内
TEL 03-5214-5540　FAX 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003　FAX 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810　FAX 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979　FAX 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-7164　FAX 045-786-9898

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館3階
TEL 0463-79-3921　FAX 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内
TEL 052-781-5027　FAX 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学図書館3階
TEL 059-232-1356　FAX 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69番地 京大吉田南構内
TEL 075-761-6182　FAX 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-8211　FAX 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614　FAX 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238　FAX 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-5233　FAX 0798-53-9592

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL 092-641-0515　FAX 092-641-0172

大学出版八四号(二〇一〇年秋)二〇一〇年一二月一日発行　頒価一〇〇円(千共)　発行所＝一般社団法人大学出版部協会　ISSN 0913-3305 振替〇〇一七〇-八-三八九一三一
〒一〇一-〇〇七三　東京都千代田区九段北一丁目一四番一三号メゾン萬六 四〇三号室　電話〇三(三五一一)二〇九一　E-MAIL:mail@ajup-net.com　URL：http://www.ajup-net.com/